

平成 28 年度 文化庁

「大学を活用した文化芸術推進事業」

Lectures, Projects, Seminars

Arts Management for Social Inclusion

アートの 活用形？

大阪市立大学

社会包摂型アートマネジメント

プロフェッショナル育成事業

3

社会包摂とは

社会包摂（social inclusion）とは、失業や薬物中毒、家庭崩壊など従来型の社会国家施策が機能不全に陥るなかで、社会に広がった多様な社会的問題（社会的排除）を解決しようとする政策課題として、90年代のEUにおいて浮上してきた概念です。孤立、孤独、排斥に押しやられがちな人々に対して、社会とつながるチャンネルを確保し、人々の相互関係や信頼感を回復させることによって、不当な差別や排除のないコミュニティをつくる実践を意味します。チャンネルづくりの媒体としてアートが注目され、アメリカ合衆国や英国でのコミュニティアート、オーストラリアのコミュニティ文化開発といった流れを形成しましたが、政権の交代によって予算が削減されるなど、安定した社会的インフラにはなっていません。日本においては1998年のNPO法の成立以来、意欲的なアートNPOが社会包摂型アートマネジメントに取り組んできました。本事業は、日本における最も先駆的なアートマネジメントを学ぶものです。

主催	大阪市立大学
共催	NPO法人こえとことばとこころの部屋 NPO法人cobon タチョナプロジェクト
協力	NPO法人アーツプロジェクト プレーカープロジェクト 十津川村 大阪アーツカウンシル
特別協力	ブリティッシュ・カウンシル
後援	大阪府 大阪市（予定）
助成	平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」



「アートの活用形？」

社会包摂型アートマネジメント・プロフェッショナル育成事業3

経済格差や少子高齢化、甚大な自然災害、貧困、病などのほか、日常の中に潜在する様々な課題と向かい合い、アートを媒介として創造的に克服、解決、共存への道筋を見出そうとする社会包摂型アートマネジメントのプロフェッショナルを育成する事業です。①理論的な背景を学ぶ講座、②問題を掘り起こし、実践への仮説を自ら構想するゼミ、③専門家とともに社会包摂の現場で活動するプロジェクト実践、以上3つのコースからなっています。知識を修得しながら、現場の様々な問題に応じて働くことのできる実践力（実戦力）を身につけるためのプログラムです。

本事業の主目的は人材育成にあります。最終的には働く場所の発見、創出へと繋げていく必要があります。コミュニティに寄り添うアートの実践を支えていくための基盤整備を射程に入れ、行政との長期的な連携を図っていくとともに、芸術文化以外の社会領域、セクションとのネットワークづくりに注力していく予定です。

受講条件・申し込み方法

【講座】

どなたでも受講していただけます(1回限りの受講も可)。

- 定員 | 各回 30名
- 会場 | 船場アートカフェ
- 受講料 | 全6回通し=5,000円 / 1回=1,000円

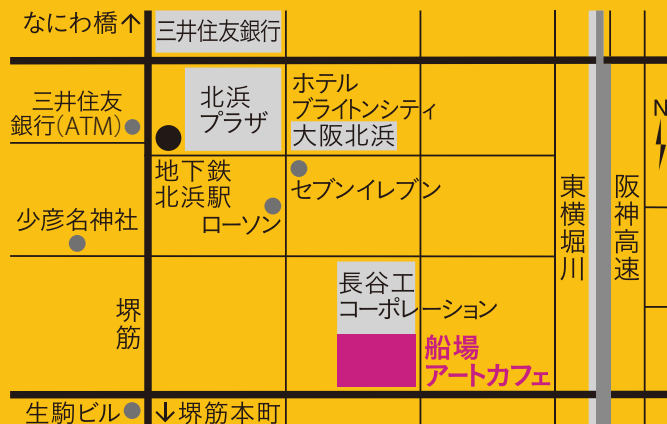
講座 | 申し込み方法

氏名、年齢、職業、連絡先(電話番号/PCメールアドレス)、受講される講座日程を明記の上、問い合わせ先にメールでお申し込みください。

- お申し込みは、各講座の5日前までにお願いします。



〒541-0046 大阪市中央区平野町1-5-7 辰野平野町ビル地下1階
辰野ひらのまちギャラリー(南東角の屋外階段から地下へ)
船場アートカフェは、大阪市立大学・都市研究プラザが運営する現場プラザです。



地下鉄堺筋線「北浜」駅5番出口より徒歩5分

【プロジェクト実践 / ゼミ】

アートの領域のみならず、教育、福祉、医療、まちづくり等の現場で、アートを活用した取り組みをされている方、行政や企業の文化担当の方などを主な対象者とします。これから取り組もうとされている方、学生の方も参加可能です。

- 講座(3コマ以上)を受講してください。

プロジェクト実践

- プロジェクト実践では、プロジェクトを1つ選択し、全回とも通して出席していただくことを基本条件とします(複数選択も可)。
- 定員 | 各プロジェクト4~5名程度
- 会場 | 連携先の実践現場(プロジェクトによって異なります)
- 受講料 | 無料

ゼミ

- 各コースでは、全5回とも通して出席していただくことを基本条件とします(複数選択も可)。
- 定員 | 各コース15名
- 会場 | 大阪市立大学 杉本キャンパス/梅田サテライトほか
- 受講料 | 1コース=5,000円 / 2コース=8,000円 / 3コース=10,000円

プロジェクト実践 / ゼミ | 申し込み方法

氏名、年齢、職業、連絡先(電話番号/PCメールアドレス)、希望されるゼミのコース、またはプロジェクト実践を明記の上、それぞれの受講の動機と抱負(400~800字)と共に、6月26日[日]までに問い合わせ先にメールでお申し込みください。

- ※ 定員に達した場合は希望に添えない場合もあります。
- ※ 定員に満たない場合は6/26以降も受け入れ可能な場合があります。メールまたはお電話でお問い合わせください。

問い合わせ先

大阪市立大学文学部内 AMP 事業事務局

E-mail | artsmanagement@lit.osaka-cu.ac.jp

URL | <http://lit.osaka-cu.ac.jp/artsmanage>

TEL | 06-6605-2026 [月・水・金 10:00-16:00]

※ 今年度よりURLが変更になりました

インターン制度

プロジェクト実践では連携先である、NPO法人 cobon タチョナプロジェクト、プレーカープロジェクト、NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)においてインターンを受け入れます。プロジェクト実践のワークショップ以外にも事務局の仕事に従事することで経験値を高めるプログラムです。

受講条件

2014、15年度のプロジェクト実践に参加された方、もしくは現場経験のある方が対象となります。希望される方は、講座(3コマ以上)、ゼミ(1コース以上)を受講してください。

※ 詳細は希望者に別途お知らせいたします。

申し込み方法

氏名、年齢、職業、連絡先(電話番号/PCメールアドレス)、活動実績、希望されるインターン先を明記の上、6月26日[日]までに問い合わせ先にメールでお申し込みください。

※ 定員に達した場合は希望に添えない場合もあります。

講座

実践の現場で培われた知識、技術をもとに、社会包摂型アートマネジメントの基礎的概念や方法論を学びます。

- ※ すべての講座は船場アートカフェにて行います。
- ※ 日程など変更する場合がありますので、その都度講座内でお知らせします(1回のみ参加の方は、事前にお問い合わせください)。

① これからのアートマネジメント

日時 | 2016年6月29日[水] 19:00-21:00

講師 | 藤野一夫(神戸大学大学院国際文化学研究所教授)

—— 極端な市場原理に基づくグローバル資本主義がもたらす様々な問題の本質を批判的に読み解きながら、「新しい公共」の構築に関与するアートマネジメントの可能性について学ぶ。

② 教育 × アート

日時 | 2016年8月3日[水] 19:00-21:00

講師 | 野村 誠(音楽家)

小島 剛(NPO法人cobon タチョナプロジェクト
プログラムディレクター)

—— 遊びの中から自由な発想で新しい音楽を生み出していくとき、アーティストやアートマネジメントの担う役割とは? 子どもは何を得ることになるのか? 対話を通してアートと教育について考える。

③ 医療 × アート

日時 | 2016年8月31日[水] 19:00-21:00

講師 | 山口(中上)悦子(大阪市立大学大学院医学研究科准教授)

森 合音(四国こどもとおとなの医療センターホスピタルアート
ディレクター/NPO法人アーツプロジェクト代表)

—— 病院を一つのコミュニティと捉え、患者やその家族そして病院の全セクターを対象に取り組みされるアートプロジェクト。医療の質と安全を向上させるアートとデザインの役割について理論と実戦から考察する。

④ コミュニティ(地域) × アート

日時 | 2016年9月28日[水] 19:00-21:00

講師 | 藤 浩志(美術家/秋田公立美術大学教授)

松尾真由子(ブレイカープロジェクト事務局長)

—— 少子高齢化、過疎化、格差など、地域コミュニティが抱える問題に、アートは具体的な解答を持っているわけではない。社会におけるアートの役割を再考し、場所や人と関わる手法や態度について考える。

⑤ 排除 × アート

日時 | 2016年10月26日[水] 19:00-21:00

講師 | 中川 眞(大阪市立大学大学院文学研究科教授)

上田假奈代(NPO法人こえとことばとこころの部屋代表)

—— 排除はしばしば不可視の構造をもつ。排除されている人々の声は届きにくい。「アートは他者性の表現」と位置づける上田假奈代の「言葉と声」の取り組みを軸に、このテーマの深さを測ってゆく。

⑥ アジアのアートマネジメントから

日時 | 2016年11月30日[水] 19:00-21:00

講師 | ジャネット・ピライ(Arts-ED 代表)

—— 東南アジアには状況に応じた多様なアートマネジメントの手法が存在する。マレーシアをベースに、日本、タイなどと比較しながら、文化のエコロジーや政策のあり方などについてマクロな視点から考える。

プロジェクト実践

病院、小学校、高齢化コミュニティ、貧困地域、過疎地といった現場で、プロフェッショナルのアートマネージャーの指導のもと、実際のプロジェクト運営に参加して知識・技術・知恵を学びます。

※ 日程・実施場所など詳細は講座にてお知らせいたします。

A 医療安全のためのアート & デザインプロジェクト

連携先 | 大阪市立大学医学部附属病院

実施期間 | 2016年8月～2017年2月 [全7回]

アーティスト | 鯨坂兼充(デザイナー)、宮谷陽平(設計士)

講師 | 森 合音(四国こどもとおとなの医療センターホスピタルアートディレクター/NPO法人アーツプロジェクト代表)

—— 大阪市立大学医学部附属病院で実施する、医療の質と安全の向上を目的としたアートプロジェクト。フラットな「対話」の場から生まれる新しい病院のかたちを創造していくためのアート&デザインの導入手法に出会う。具体的には、医療の質・安全に関わる現場の問題やニーズを引き出し、そこからプランを立ち上げて実現させるまでのプロセスを、柔軟かつ精密で質の高い手法を通して学ぶ。

B こども熱帯音楽祭 #05

連携先 | NPO法人cobon タチヨナプロジェクト

実施期間 | 2016年7月～9月 [全8回]

アーティスト | 梅田哲也(美術家/音楽家)

講師 | 小島剛(NPO法人cobon タチヨナプロジェクトプログラムディレクター)

—— 学校やアートセンター、地域において、子どもたちがアートに触れ体感する芸術体験プログラムを提供する「タチヨナ」の手法を学ぶ。「こども熱帯音楽祭」が目的とするのは、アーティストと子どもたちが共に創意工夫して音楽を創ることを通して、将来に出会う様々な課題を創造的に解決していく力を育てゆくことである。子どもたちの創造性を引き出すために教員や保護者との連携を図り、より柔軟で想像的なマネジメント力を養っていく。都市と村落という2つの空間が現場となる。

C 地域に根ざした創造活動拠点の実験 3

連携先 | ブレーカープロジェクト

実施期間 | 2016年9月～2017年2月 [全10回]

アーティスト | きむらとしろうじんじん(美術家)ほか

講師 | 松尾真由子(ブレーカープロジェクト事務局長)

—— 独自の表現手段を開拓するアーティストと共に地域の人々との関わりをつくりながら、日常のなかに創造の現場を生み出しているブレーカープロジェクト。アーティストと地域住民が出会い共創する場として、空きスペースを活用した創造活動拠点がつくられている。2015年3月末に閉校となった元小学校を活用し、地域に開かれた作業場をつくるプロセスを通して、アートと地域をつなぐ手法を学び、両者の有効な関係性のあり方を考える。

D 釜ヶ崎オ!ペラ 3

連携先 | NPO法人こえとことばとこころの部屋
(ココルーム)

実施期間 | 2016年9月～2017年2月 [全10回]

アーティスト | 野村 誠(音楽家)、マット・ピーコック、

ロバート・ギルドン(ストリートワイズ・オペラ)ほか

講師 | 上田假奈代(NPO法人こえとことばとこころの部屋代表)

—— 高齢者層が激増する寄せ場(日雇い労働市場)のまち釜ヶ崎で、カフェや釜ヶ崎芸術大学などを通してさまざまな人々との出会いをつむぎ、表現と学び合いの場をつくっているココルームの手法を学ぶ。ホームレスの人々を対象にしたワークショップによって社会への参加度を高める機会をつくりだすイギリスのストリートワイズ・オペラのメンバーを招聘し、レクチャー、映像、ダンス、音楽などが混在する舞台作品の創作と公演を企画・運営する。

ゼミ

アートマネジメントの実務を遂行するにあたって重要な3つの課題に焦点をあて、受講生自らが問題を設定し、情報収集や分析を通して解決に向けたプロセスを考え出す場です。新たに導き出した方法論を援用して実践にフィードバックさせていくことをめざします。

※ 日程など詳細は講座にてお知らせいたします。

① プランニング

実施期間 | 2016年10月～11月 [全5回]

ファシリテーター | 中川 眞 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)
雨森 信 (大阪市立大学文学部特任講師)

—— 企画立案のベースとなる理念づくりから資金調達までの流れを学ぶ。

② 評価

実施期間 | 2016年9月～10月 [全5回]

ファシリテーター | 樋口貞幸 (大阪市立大学都市研究プラザ
特別研究員)

—— 定量化に馴染みにくいアート実践の評価について学ぶ。

③ フィロソフィー

実施期間 | 2016年7月～9月 [全5回]

ファシリテーター | 本間直樹 (大阪大学大学院文学研究科准教授)

—— 実践を支える思考のプロセス、自己・他者・身体への関係について、対話を通して学ぶ。

フォーラム

本事業のプロジェクト実践講師と受講生が集合し、2016年度の全プログラムの最後に振り返りを行い、今年度の取り組みのなかで新たに発見された知や技術の共有をはかります。

- 日程 | 2017年2月 (予定)
- 会場 | 調整中
- 出演者 | 森 合音、小島剛、松尾真由子、
上田假奈代ほか

アウトリーチプログラム

本事業の記録を元に「社会包摂型アートマネジメント」の教科書出版を予定しています。編集会議など、制作過程の一部を公開し作業を進めていきます。

※ アートの活用形? (2014～2016年度) のプログラム受講した方を対象にしています。参加を希望される方は、問い合わせ先にメールでお申し込みください。